

 センコーグループホールディングス株式会社

お問い合わせ先

広報室

〒531-6114

大阪市北区大淀中1-1-30-1400 梅田スカイビル タワーウエスト14F

TEL.06-6440-5156 FAX.06-6440-5148

URL <https://www.senkogrouphd.co.jp>

公式instagram [senko_group.official](https://www.instagram.com/senko_group.official)



SENKO CSR REPORT 2021

環境・安全・健康・社会への取り組み



特集1

人々の生活を「食」から支える食品物流



特集2

商事業におけるCSRの取り組み



特集3

従業員の生きがい、働きがいを応援する



見やすく読み間違えにくい
ユニバーサルデザインフォントを
採用しています。

物流を超える 世界を動かす ビジネスを変える

SENKO Group Holdings

Moving Global



ごあいさつ

人々の生活を支援する企業グループとして 持続可能な社会の実現に貢献します

センコーグループは2017年4月から持株会社体制に移行し、2021年度を最終年度とする中期経営5カ年計画「センコー・イノベーション・プラン2021 (SIP21)」に取り組んでおります。

SIP21では、「社会的責任 (CSR) の重視」を経営方針の一つとし、「持続可能な開発目標 (SDGs)」との関係性を明確にしなが、環境」、「安全」、「健康」、「社会」などの各活動を行っております。

2020年度の取り組みとして、「環境活動」では、従来からのモーダルシフトや環境に配慮した車両の導入など、脱炭素に向けた積極的な取り組みをさらに進め、国土交通省はじめ関連団体から環境保全への功績として表彰されました。

「安全活動」では、コロナ禍に対応したりリモート会議などで安全研修や訓練を継続するとともに、トラックへ障害物検知ソナーを取り付けるなど、新技術の導入を図りました。

「健康活動」では、生活習慣の改善や積極的なクラブ活動を推進したほか、「健康経営優良法人2021」に4年連続で認定されました。

「社会活動」では、コロナ感染防止対策を徹底しながら引き続き、こども交通安全教室や清掃活動などを実施したほか、鳥取県で取り組む「梨オーナー制度」が農村のポテンシャルを引き出す優良事例として、農林水産省から表彰されました。

当社は、国連が提唱する持続可能な成長を実現する

ための世界的な枠組みである国連グローバル・コンパクトに署名し、2020年10月に参加企業として登録されました。

今後も、当社グループは、人を育て人々の生活を支援する企業グループとして、ステークホルダーの皆さまに信頼されるようグループ一丸となってCSR経営を推進し、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

センコーグループホールディングス株式会社
代表取締役社長
CSR推進委員会委員長

福田 泰久

Contents

ごあいさつ	1
事業概要	3
中期経営計画とCSR方針	5
事業活動とSDGsの関係性	7
特集①人々の生活を「食」から支える食品物流	9
特集②商事事業におけるCSRの取り組み	12
特集③従業員の生きがい、働きがいを応援する	15
環境活動／環境活動ダイジェスト	17
環境報告	19
安全活動／安全活動ダイジェスト	23
安全報告	25
健康活動／健康活動ダイジェスト	27
社会活動／社会活動ダイジェスト	29
社会報告	31
コーポレート・ガバナンス	33
ESGハイライト	35
企業データ	37

■編集方針および報告の範囲

センコーグループは、CSR推進委員会を設置し、従来から経営の重要事項と位置づけていた「環境保全」「交通安全対策」を含めたCSR活動の取り組みについて2008年度から「CSR報告書」として発行しています。

編集方針は下記の通りです。

- (1) センコーグループの報告対象期間における特徴的なCSR活動を「特集」として紹介しています。
- (2) 報告対象範囲は、センコーグループの活動です。
- (3) 報告対象期間は、2020年4月から2021年3月までの活動ですが、一部2021年4月以降のものも記載しています。
- (4) 環境の報告は、環境省の「環境報告ガイドライン(2018年版)」を参考にしています。

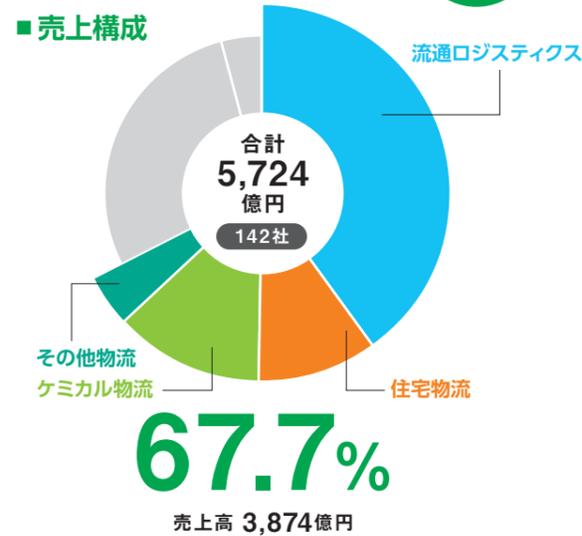
センコーグループの4事業

人を育て、人々の生活を支援する企業グループとして、サービス・商品の新潮流の創造にたゆみなく挑戦しています。 ※会社数は2021年3月末現在

物流事業グループ

104社

総合スーパー・ドラッグストア・ホームセンター・アパレルなどの流通業界をはじめ、住宅・建材業界、化学製品などのケミカル業界のお客様を中心に物流事業を展開しています。
また食品業界向けには、冷凍・冷蔵倉庫を保有し、輸送では保冷トラック・鉄道コンテナを利用するなど、全国規模で低温物流(冷凍・冷蔵)のネットワークを構築しています。
さらに、海外に現地法人などの事業拠点を開設し、国内外をつなぐ複合一貫輸送や海外での物流センター事業を展開しています。



主な事業会社
センコー(株) / (株)ランテック / 東京納品代行(株) / センコーエーラインアマン(株) / アクロストランスポート(株) ほか

流通ロジスティクス



住宅物流



ケミカル物流



その他物流

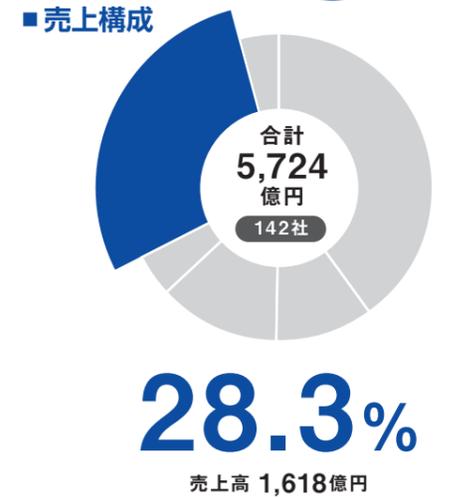


商事・貿易事業グループ

16社

石油販売、商事販売、貿易事業などを行っています。燃料販売、物流機器・資材など物流関連資材や日用品、包装資材、食品、酒類などを販売しています。
また、お客様の原材料や製品の輸出入、海外取引などの貿易事業も行っていきます。

主な事業会社
センコー商事(株) / アスト(株) / (株)スマイル / アズフィット(株) / (株)丸藤 ほか



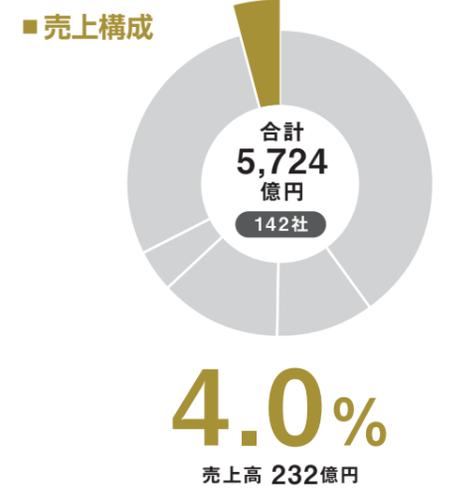
その他事業グループ

21社

ライフサポート事業 10社

介護、フィットネスや家事代行、総合卸売業、保育事業などの生活者を支援する事業を展開しています。
また「(株)センコースクールファーム鳥取」では、廃校を利用した福祉型農業を行っており、葉物野菜やキノコ類を栽培・販売しています。

主な事業会社
(株)けいはんなヘルパーステーション / (株)ブルーアースジャパン / (株)ビーナス / 寺内(株) / (株)プロケア / (株)センコースクールファーム鳥取 ほか



ビジネスサポート事業 11社

お客様の多様なニーズに対応した「最適な物流システム」を実現するため、物流コンサルティング事業やITソリューションシステムの開発と運用を行う情報システム事業を展開しています。
また不動産やホテル事業、人材派遣事業、通販事業者向けのコンタクトセンター事業なども行っています。

主な事業会社
ロジ・ソリューション(株) / センコー情報システム(株) / センコー不動産(株) / S-TAFF(株) / センコービジネスサポート(株) / センコークリエイティブマネジメント(株) ほか



企業価値向上と、豊かな未来社会の実現へ

グループ一丸となってCSR経営を推進

センコーグループの成長戦略

『SIP21』

センコーグループは、2017年4月から中期経営5カ年計画「SIP21」をスタートさせました。その方針の中で「社会的責任(CSR)の重視」を掲げています。

グループ戦略の方向性

「SIP21」(センコー・イノベーション・プラン2021)は、「人々の暮らしと産業を支える企業グループ」として、新潮流の創造に挑戦し、新たな100年を切り拓いていく私たちの成長戦略です。

SIP21 Senko Innovation Plan 2021

「Moving Global」の実現

～物流を超える、世界を動かす、ビジネスを変える～

グループ一丸となり、国内外の経済・社会にイノベーションを起こす。

グループ中期経営目標 2021年度目標

●営業収益	7,000億円
●営業利益	280億円
●営業利益率	4.0%
●自己資本利益率(ROE)	10.5%
●自己資本比率	40.2%

グループ中期経営方針

1 事業領域の拡大

海外での事業拡大の加速、国内での既存事業の高度化、ライフサポート・ビジネスサポート事業などの新事業領域に進出する。またそのために、積極的な業務提携やM&Aも推進する。

2 ブランド価値の向上

グループ総合力を結集させ「驚きと感動を与えるサービス」を提供し、顧客満足度(CS)から顧客感動(CD)へ進化する。

3 従業員満足度(ES)の向上

幅広い人材が集まり、成長し、生きる環境へ価値を高めるため、多様な制度づくりと活発な利用を通じ、従業員満足度を向上する。

4 社会的責任(CSR)の重視

地域・各地の産業、文化、自然を守り、育て、社会とともに成長する。

5 資本市場の信頼獲得

企業グループ全体の価値の最大化を図るとともに、財務健全性を高める。

グループCSRの中期方針

当社グループをはじめ、仕入先や協力企業なども含め、コンプライアンス、CSRを重視する意識を高める。

重点施策

1 環境活動

- ①特定事業者として省エネ目標の達成に取り組む。
- ②「省エネ化によるリデュース」「リサイクル率」「グリーン商品購入率」を向上させ、循環型社会へ貢献する。
- ③グループ会社の環境情報を整備し、グループ会社への環境目標の展開を進める。
- ④LED照明、低公害車など、環境負荷低減設備の積極的導入を進める。
- ⑤新拠点への太陽光パネル設置や、大型CNG車導入などで代替エネルギーの活用を進める。
- ⑥グリーン物流の推進として、モーダルシフトをお客様に積極提案する。

2 安全活動

- ①グループ会社の特性に応じた安全・衛生マネジメント体制を確立する。
- ②ビッグデータを活用し、各種安全関連システムの一元化を図る。
- ③事故を未然に防ぐ(アクティブセーフティ)技術を積極的に導入する。
- ④安全技術の継承と学びの機会を創出する。

3 健康活動

- ①グループ全従業員の健康情報を管理し、健康寿命増進につなげる。
- ②健康管理を強化し、健康起因事故を撲滅する。
- ③ストレスチェック実施による予防管理体制を構築する。
- ④健康保険組合との連携による健康増進活動を強化する。

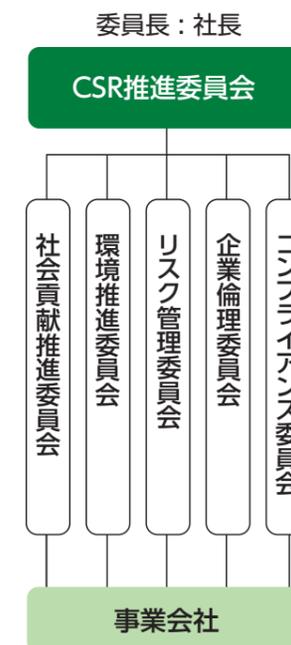
4 社会活動

- ①交通安全教室や地域清掃を積極的にを行い、地域社会へ貢献する。
- ②海外での教育支援などのボランティア活動を積極的に行う。

センコーグループのCSR推進体制

さまざまな社会的責任を果たすため「コンプライアンス」「企業倫理」「リスク管理」「環境推進」「社会貢献推進」の各委員会がCSRに関する個々の活動を推進しています。

さらにセンコーグループホールディングス(株)の社長を委員長とするCSR推進委員会が各委員会を統括しています。



グローバル・コンパクトに署名しました

センコーグループホールディングス(株)は、国連グローバル・コンパクト(UNG)に署名し、2020年10月、参加企業として登録されました。

UNGとは、国際連合が提唱する持続可能な成長を実現するための世界的な枠組みのことで、参加企業は、人権の保護、不当労働の排除、環境への対応、腐敗防止に関わる原則を支持し、その実現に寄与する活動を行います。センコーグループは、署名によりこれまで以上にこれらの活動を充実させるとともに、事業を通じて社会課題の解決と新しい価値の創造を目指し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

WE SUPPORT



人を育て、人々の生活を支援する センコーグループの事業活動とSDGs

センコーグループでは、「健全な地球環境」と「良好な社会関係」の上に「経済活動」が成り立つという考え方を原則とし、事業を通じて社会課題の解決と新しい価値の創造を目指しています。

ライフサポート事業

介護・家事代行／フィットネス／
総合卸売・小売／保育／レストラン／
農業 など

クレフィール湖東

交通安全教育／人材育成／
こども交通公園 など

ビジネスサポート事業

物流コンサルティング／ITソリューション／
コンタクトセンター／人材派遣／ホテル／不動産 など

商事・貿易事業

貿易／石油販売／
日雑品・食品・酒類の販売 など

物流事業

輸送／保管／
構内作業／
流通加工／
国際物流 など

センコー
グループの
SDGs
優先テーマ



センコー
グループの
SDGs
優先テーマ



Economic level

事業を通じて社会に新しい価値を提供する

人を育て、人々の生活を支援する事業

特集1

人々の生活を「食」から支える食品物流



詳しくはP9へ



お客様との協働による
グリーン物流の推進



自然災害に強いレジリエ
ンスな物流サービスの提供



介護・保育・健康サービス
をはじめとするライフ
サポート事業の展開

特集2

商事事業における
CSRの取り組み



詳しくはP12へ

事業活動を通じ、CSR施策と連動した取り組みで社会課題の解決を目指すとともに、社会のバリアフリー化に貢献します。

Society level

CSR
安全活動
健康活動
社会活動

地域コミュニティをはじめ、センコーグループにつながる、あらゆるステークホルダーとの対話と協働を推進し、良好な社会関係を構築します。

基盤となる人材と組織

特集3

社会との協働



グループ全社での健康
経営の推進



従業員の生きがい、
働きがいを応援する

詳しくはP15へ



事業拠点での子ども交
通安全教室



クレフィール湖東を拠点
とする物流安全教育・
プロドライバー養成

地球環境の持続可能性



PDセンターでの太陽光
発電・省エネ設備の導入



輸送インフラの低エネルギー・低炭素化
(CNG車、電気トラックの導入)



更生タイヤの活用



大阪湾再生プロジェクト
に協力

CSR
環境活動

Environmental level

事業活動による環境負荷を最小限に抑える

物流企業として「エネルギー消費」や「温室効果ガスの排出」
についての責任を自覚し、その把握と削減に最大限努めます。



特集1

人々の生活を「食」から支える食品物流

食のインフラを守る冷凍・冷蔵輸送

冷凍・冷蔵の生鮮食品や加工食品の輸送を担う㈱ランテック。どんな時も物流を滞らせないために、倉庫・物流拠点が重要な役割を果たしています。

SDGsとの関係

冷凍・冷蔵品の輸送を専門とする㈱ランテックは、倉庫事業、輸送事業を通じて「食」の物流を滞らせない体制を構築し、人々の生活を「食」から支えています。



株式会社ランテック
取締役
関西・中四国営業本部長 兼
関西・中四国営業部長

玉川 明



食のインフラを守り生活を支えるランテックの冷凍・冷蔵輸送

食品物流は、人々の生活に欠かせないライフラインです。当社は、「食」を「安全・安心」に届ける重責を担っていることを認識し、商品の品質保持を何より重視しています。とりわけ温度管理と誤出荷・誤配送の防止、異物混入防止に重点を置き、全社を挙げて厳密な管理を徹底しています。また物流を滞らせないために、物流拠点と輸送体制の拡充も推進しています。その一環として2019年7月、関西支店を開設しました。「冷凍・冷蔵物流のオンリーワン企業」を目指し、今後も増加する食品物流の需要に応えていきます。



24時間365日「食」の物流を止めない大規模物流拠点

24時間365日稼働する倉庫では、荷役・保管や仕分けから輸送へと休むことなく作業が行われています。5万5千tもの物量を保管可能な関西支店では、最新の設備や技術を導入し、安全かつ迅速な荷役・保管を実現しています。対面式トラックバース（搬出入口）によって一方通行のシンプルな動線を確認する他、音声ピッキングシステムを導入し、庫内作業の効率化と安全性の確保を図っています。また非常時に備えて制振構造の自動冷凍倉庫や非常用発電設備を導入し、どんな時も「食」の物流を止めない倉庫を目指しています。



東側21基、西側29基の計50基のトラックバースから荷物を搬入出



広々とした2階保管・仕分けフロア



作業効率を高める音声ピッキングシステム

温度管理を徹底し 冷凍・冷蔵品の品質を保つ

冷凍・冷蔵品の品質を維持するため、倉庫全体で自動制御による温度・湿度管理を行っています。1階は陽圧空調による外気の流入防止によって+5℃に保つとともに、デシカント除湿機によって常時除湿しています。また-25℃の自動冷凍倉庫を導入。自動化によるスピーディーな搬送が、商品の品質維持につながっています。



7,000棚収納可能な自動冷凍倉庫

Column 取り組み

太陽光発電による省エネルギーの取り組み

関西支店の屋上に太陽光発電設備を設置しています。発電電力は1,000kWで、支店の全消費電力の約17%を太陽光発電でまかなっています。再生可能エネルギーを活用することによって消費電力量を削減し、環境負荷低減にも貢献しています。



全室合わせて1万棚を収納できる電動移動棚（ラック）

中 継機能の強化により 輸配送の効率化を実現

倉庫での荷役・保管から輸送までを一貫して請け負えるのが当社の強みです。関西支店の開設により、九州から関東以北まで全国の支店をつなぐ中継拠点としての機能が強化されました。中継物量は最大1日1万ケースにのびます。関西支店発着のトラックの運行数が増加しただけでなく、関西支店を中継することにより、全社の運行効率も向上しています。



フレッシュ便の中継物量の推移
約7,700ケース/日→約9,000ケース/日



パレット収容棚数の推移
2,800棚→17,221棚



関 西エリアに3万4,000ケースを集配 小口混載定温輸送「フレッシュ便」

物量の大小にかかわらず、お客様のあらゆるご要望に応えるために生まれたのが、小口混載定温輸送のフレッシュ便です。いまやフレッシュ便をご利用いただくお客様は約5,300社にも及びます。関西支店の開設によって、フレッシュ便の運行数は大幅に増加しました。兵庫県全域、および大阪府北部、京都府北・南部の集配エリアに1日約80台のトラックが約3万4,000ケースを集配しています。



フレッシュ便の集荷・配送までの流れ



特集2

商事事業におけるCSRの取り組み

グローバルに商流を創り出す センコーグループが担う地球社会への責任

物流の枠を超えてグローバルに商流を創り出すセンコーグループ。グローバルに事業を展開する企業の責任として地球社会への貢献にも尽力しています。

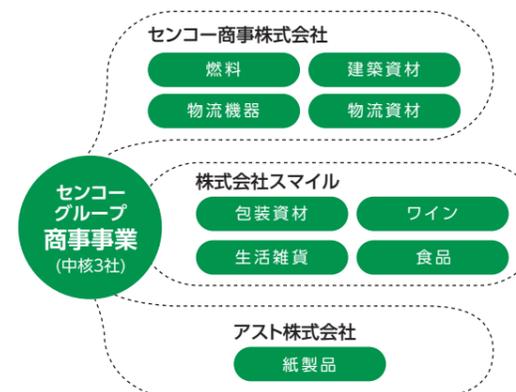
SDGsとの関係

センコーグループの商事事業では、グループ各社において環境負荷低減に向けた取り組みや貧困・紛争地域の子どもたちへの教育支援を行っています。



生 活に必要な商品を世界から 最適に調達し、届ける商事事業

センコーグループの商事事業は、センコー商事(株)、アスト(株)、(株)スマイルなどの中核会社为中心となり、家庭紙、包装資材など多様な生活雑貨の卸販売、全国のガソリンスタンドで給油できる石油カードや業務用軽油の販売の他、世界各国からコストパフォーマンスの高いワインを調達・卸販売する事業を展開しています。また、お客様の原材料や製品の輸出入、海外取引などの貿易事業も行っています。



取り組み 1

卵の殻でお客様の脱プラに貢献する



プラスチックの削減につながる卵の殻を使った新素材に着目

センコー商事(株)は、環境配慮型商品の提供を通じてお客様の環境への取り組みに貢献することを重要な責務だと考えています。プラスチックの使用量削減を進められているお客様からご要望を受け、新たな商材や素材を探索する中で、卵の殻を樹脂や紙に配合した画期的なバイオ素材に着目しました。従来は産業廃棄物として廃棄される卵殻を活用することで、プラスチックや紙の使用量の削減が可能になり、CO₂排出量や産業廃棄物の削減にもつながります。



紙 およびプラスチックを減量した新商品をセンコーグループに提供

まず卵殻を配合した紙を使用した名刺の商品化から開始しました。自社で使用する他、センコーグループへの提供も進めています。次いでクリアファイルなど、従来のプラスチック製品に代わる商材も増やしていく計画です。またこのバイオ素材を用いた新商品の開発にも取り組んでいます。今後もお客様のニーズに応える新たな環境配慮型商品を開発、提供していきます。



Voice 担当者コメント



商品の提供を通じてお客様のプラスチック削減に貢献します

センコー商事株式会社 ソリューション事業担当 取締役 酒井 栄一

プラスチック使用量削減は、いまや世界が取り組むべき課題となっており、当社のお客様の多くもその削減に尽力しておられます。これまでにない商品の提供を通じて、そうしたお客様の環境活動に貢献することが商社としての当社の役割です。現在は複数のパートナー企業と連携し、卵殻配合の新素材を用いた荷物運搬用パレットの開発にも取り組んでいます。商品のライフサイクルを通じて環境負荷を低減しつつ、機能性も実現する新たな商品を開発し、お客様のプラスチック削減に貢献したいと考えています。

取り組み 2

アジアの子どもたちに絵本を贈る



従業員が参加してアジアの子どもに絵本を送付

センコー商事(株)は従業員一人ひとりが社会について考え、よりよい社会を創っていくために尽力することが重要だと考えています。そうした従業員が取り組む社会活動の一つとして、紛争や貧困などによって教育の機会が失われたアジアの子どもたちに「絵本を届ける運動」(運営団体：(公社) シャンティ国際ボランティア会) に参画しました。25名の従業員が参加して20冊の絵本に翻訳文を記したシールを貼り、運営団体を介してミャンマーの難民キャンプ、およびラオスに届けました。



©Shanti Volunteer Association / Yoshifumi Kawabata
「ぐりとぐらのおきゃくさま」作:中川 李枝子 絵:山脇 百合子(福音館書店)

自分に関わる問題としてSDGsに関心を持つきっかけに

絵本の送付後、絵本を受け取った子どもたちから「学校の図書館で絵本を読むのが楽しみのようになった」といった喜びの声をいただきました。今回の取り組みを通じて、子どもたちが未来を拓く一助となるとともに、従業員が自身に関わりのある問題としてSDGsに関心を向けるきっかけになりました。2021年度は、30冊送付を目標に活動を継続します。



Voice 担当者コメント



世界で起こる問題を身近に感じるようになりました

センコー商事株式会社 経営管理部 石井 香澄

日本語の絵本にビルマ語やカレン語、ラオス語の翻訳シールを貼る活動に取り組みました。活動に参加したことで、世界で起こっている紛争やそれによってもたらされる問題について知り、自分たちがいかに恵まれた環境にいるのかを実感しました。それまであまり身近に感じていなかった世界の紛争や貧困の問題を自分に関係あることとして考えるようになりました。今後も活動に積極的に参加するとともに、自分の周りの人にもその重要性を伝えていくつもりです。



バスケットボール部



社内バンド活動



サーフフラットフィッシング部



ダンス部



ホビー部



ヨガ部

特集3

従業員の生きがい、働きがいを応援する

一人ひとりの活躍を支えるセンコーグループ

センコーグループは、従業員が健康で楽しく、生きがいをもって働くとともに、文化・スポーツ活動を通じて社会に参画し、豊かな地域・社会に貢献することを重視しています。

SDGsとの関係

センコーグループは、文化・スポーツ活動の推進を通じて、従業員の働きがいづくりと健康増進を積極的に支援しています。



従業員の心身の健康を願い 文化・スポーツ活動を推進・支援

人々の生活を支援する事業を展開するセンコーグループは、「その源泉は人材にあり」と考えています。2021年4月、本社組織として「文化・スポーツ推進担当」および「健康推進担当」を設置しました。従業員が心身ともに健やかで充実した生活を送れるよう文化・スポーツ活動の推進と支援を行っていきます。



フットサル部



囲碁部



バレーボール部

ゴルフ部

仕事も、ゴルフも 挑戦心とやりがいを持って

小口配送ネットワークの拡充や軽貨物事業の推進に携わっています。今後の事業拡大に向けて重要な責務を担うやりがいを感じ、日々挑戦する気持ちで取り組んでいます。ゴルフ競技での今年の目標は、全日本企業対抗ゴルフトーナメント「第20回RELO CLUB 全日本企業対抗ゴルフトーナメント リクルートCUP2021 夏季団体戦」で優勝すること、個人では「日本社会人ゴルフ選手権」で優勝すること。大会で活躍し、センコーグループの企業イメージアップの役に立ちたいと意気込んでいます。



センコー株式会社 事業政策推進本部
自動車事業推進部
都 和馬



柔道部

会社の理解と応援を力に 心・技・体を磨き柔道で日本代表を目指す

毎日営業所で5時間ほど事務作業や現場応援などを行った後、3~4時間、練習やトレーニングに励んでいます。柔道で結果を出せるのは、営業所の皆の理解や協力があるからこそ。そう思い、いつも感謝しています。仕事で新たなスキルを身につけ営業所の力になれた時には、大きなやりがいを感じます。目標は、世界の舞台で活躍すること。仕事も柔道も手を抜かず、プロ意識を持って、心・技・体を磨いています。



センコー株式会社 東京主管支店 日野営業所
米村 克麻



陸上競技部

2021年4月、 女子陸上競技部創部



テニス部

テニスを通じ健康増進と コミュニケーション活性化



SDGsにも直結。各方面で評価を受けるセンコーの「グリーン物流」

センコーグループは環境負荷を低減する「グリーン物流」をいち早く提唱し推進しています。鉄道・海上輸送を組み合わせたモーダルシフト、トラックの大型化の推進、物流の拠点集約など、脱炭素社会の実現に向けた取り組みは国土交通省、物流連など各方面で高い評価を受け、2020年度も環境保全の取り組みに顕著な功績があった事業者として表彰されています。



「交通関係環境保全優良事業者 国土交通大臣表彰」を受賞

東京納品代行(株)では、2019年7月にお客様と共同で国内初となる電気トラックのハンガー車を導入し、CO₂排出量を1台あたり26%削減(ディーゼル車比)しています。その他、天然ガスを燃料とするCNG車の導入、環境配慮型の運転や運行管理を徹底するための計画的な配車や効率的なルート運行、トラックドライバー教育など、脱炭素に向けた積極的な取り組みが今回の受賞につながりました。

また、同社では「BRINGプロジェクト」への賛同による制服のリサイクルや節水型のトラック専用洗車機を導入するなど、環境への取り組みを行っています。



写真右から、東京納品代行(株) 伊藤裕之社長、国土交通省 岩井茂樹副大臣

国内初の電気トラックのハンガー車導入 → CO₂排出量 52%削減



日本初、ハンガー仕様の電気(EV)トラックを2台導入



ユニホームはBRINGユニホームにて適正にリサイクル



回収後に証明書発行で物量も把握



トラック専用洗車機導入で年間100m³の節水効果

「エコシップ・モーダルシフト事業 優良事業者 国土交通省海事局長」を受賞

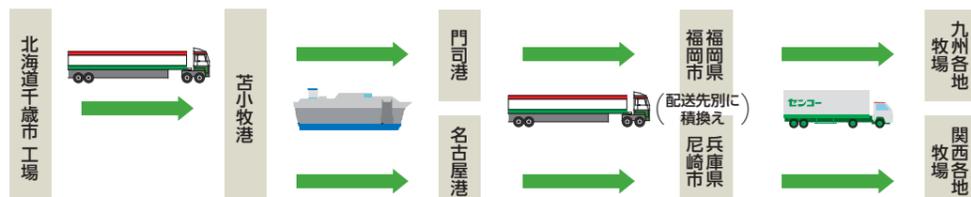
北海道の機械メーカー様から関西・北九州への長距離トラック輸送を、トレーラー・RORO船を活用したモーダルシフトに転換することで、CO₂排出量の大幅削減を実現しています。



船舶輸送を活用したモーダルシフトに転換 → CO₂排出量 75~78%削減



長距離トラック輸送からトレーラーシャーシとRORO船を活用してモーダルシフト転換



「物流連」から、2020年度は4件の表彰を受賞

センコーグループは、CO₂削減と物流効率化に寄与することを目標に、モーダルシフトに積極的に取り組み、一般社団法人日本物流団体連合会(物流連)が主催する各種表彰制度で、毎年高い評価を受けています。

2020年度は、第21回物流環境大賞では「保全活動賞*」「特別賞」を受賞。また、第18回モーダルシフト優良事業者表彰では「実行部門」「有効活用部門」を受賞しました。*お客様を支える複数の物流業者で受賞



2020年11月11日に行われたモーダルシフト取り組み優良事業者表彰式



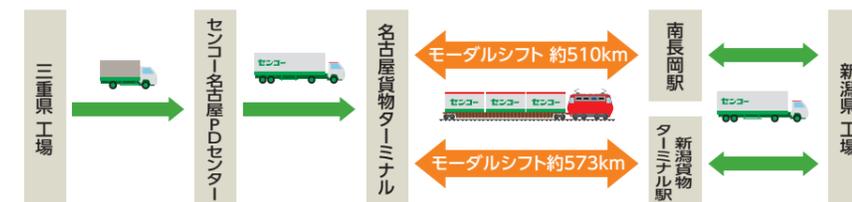
物流環境保全活動賞 受賞事例



名古屋PDセンターから、新潟県の工場へ鉄道コンテナで出荷

鉄道輸送へのモーダルシフトでCO₂排出量を 44.6%削減

三重県から新潟県への含水パルプ輸送において、トラック輸送から鉄道輸送へのモーダルシフトを実施し、CO₂排出量を177.1t抑制するとともにドライバー運転時間を60%削減。さらに、新潟県から片道の製品輸送であったコンテナに着目、帰り荷を積載化することでコンテナラウンドユースを可能にしました。



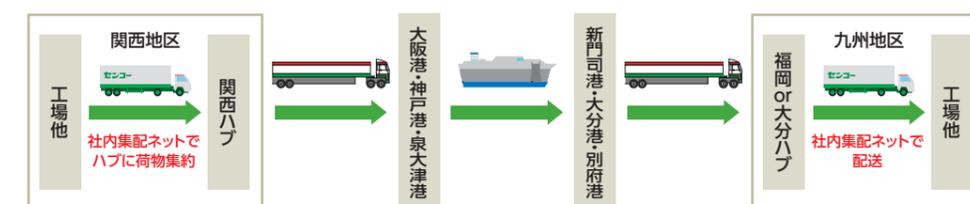
モーダルシフト 優良事業者賞 (有効活用部門) 受賞事例



九州方面へ大型フェリーを介してトレーラーシャーシを無人航送

トレーラーシャーシを活用した 海上輸送 に切り替え効率化

関西から九州間の食品、樹脂、メディカルなどの製品輸送を、トレーラーシャーシ活用による往復の海上輸送に転換。①「ハブセンターへの荷物集約」と「到着荷物配送実施」②フェリーを活用した無人航送を基幹とした幹線輸送ルート構築③船便欠航時のドッキング輸送による緊急輸送体制を確立しました。



CSR VOICE

『カーボンニュートラル』に向けた施策を着実に推進していきます

環境保護やCO₂削減施策、次世代エネルギー対応など、企業全体でしっかり対応していかなければ、社会やお客様、当社グループで働く人々から「選ばれない」時代になっています。センコーグループでは、各社拠点への太陽光発電設備設置による再生可能エネルギーの最大限の活用や、次世代燃料の先進的トライアル使用、行政と連携した地域都市の再生可能エネルギーBCP対策などを、次期新中期経営計画に盛り込んで、着実に『カーボンニュートラル』に向けた施策を推進していきます。



なかばやし けんじ
仲林 謙治
センコー株式会社
安全品質環境管理部長
(兼)環境推進グループ長

センコーグループ環境方針

環境理念

次世代へと継承していくべき地球が、豊かな自然環境に恵まれ続けるために、センコーグループは「環境先進企業」を目指し、すべての事業活動を通じて、自主的かつ積極的に環境負荷低減活動、資源の効率的利用などの環境保全活動を継続的に取り組み、将来への責任、社会からの期待に応えます。

基本方針

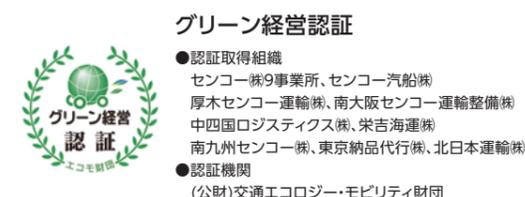
- 1 環境に関連する法規制、条例、協定および、社内規則を順守し、「良き企業市民」として主体的、継続的に環境保全活動に努めます。
- 2 経営トップ自らが、「環境目標」を定め、環境活動推進体制の整備、環境管理規程の整備を図り、継続的な環境パフォーマンス向上に努めます。
- 3 物流企業としてお客様の「調達から廃棄」までの効率的な環境負荷低減物流の支援はもとより、商事、情報、その他関連事業などにおいても、商品のライフサイクルの視点に立った環境負荷低減活動に努めます。
- 4 センコーグループの全従業員および、委託する協力会社に対し「環境目標」の周知および、啓発活動に努めます。そして、ステークホルダーに対し、積極的に環境活動情報の開示に努めます。

環境マネジメントシステムの推進と CDP 2020気候変動に関する情報開示

センコー(株)では、環境マネジメントシステムの国際規格である「ISO14001」、国土交通省所轄の交通エコロジー・モビリティ財団の「グリーン経営認証」を取得し、それぞれの規格が求める環境負荷低減活動を展開しています。

また、CDP※の気候変動に関する調査に対し2020年から回答を開始しました。2020年の結果はCランク(A~E)の評価を受けました。

※CDP:世界の主要企業に「気候変動」、「水」、「森林」のリスクと機会に関して、調査・評価を行う英国に本拠を置く国際非営利組織

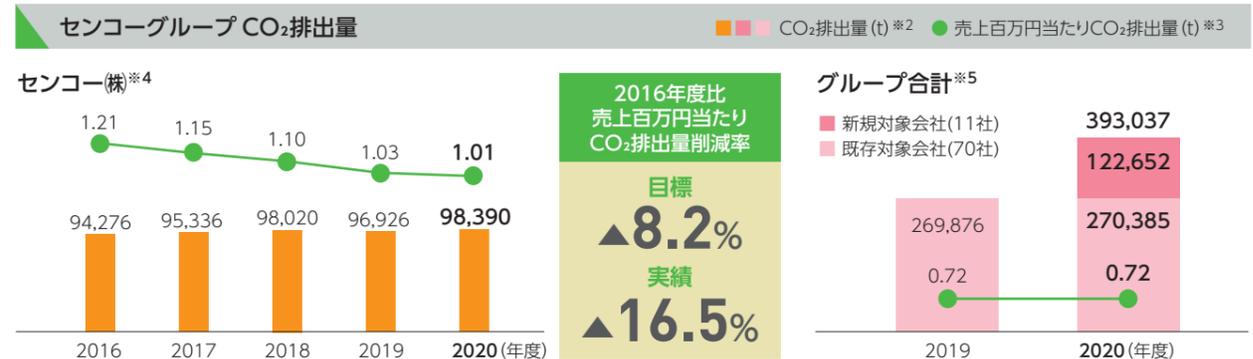


CO₂削減の取り組みと実績

センコーグループでは、事業活動で発生するエネルギー使用量及びCO₂排出量を把握し、その結果を環境保護活動に反映させています。現在、環境負荷低減に向けたさまざまな取り組みを継続し、2017年度からスタートした中期経営5カ年計画のCO₂削減目標(センコー(株)単体で5年間累計8,310トン以上削減)の達成を目指します。

	INPUT		OUTPUT		
	電力使用量 (万kWh)	燃料使用量※1 (kℓ)	電力 (t-CO ₂)	燃料 (t-CO ₂)	計 (t-CO ₂)
センコー(株) (センコー汽船(株)含む)	7,290	24,160	34,210	64,180	98,390
グループ (センコー(株)を除く)	7,925	95,567	37,794	256,853	294,647
合計	15,215	119,727	72,004	321,033	393,037

※1 燃料使用量は原油(kℓ)換算



※2 排出量はScope1・2を集計 ※3 売上高はScope1・2に該当する主力事業から算出 ※4 センコー汽船(株)含む (2018年4月分社化)
※5 センコー(株)、センコー汽船(株)、センコーグループホールディングス(株)を含む、物流53社+商事・貿易6社+その他22社=81社

2020年度のCO ₂ 削減目標と実績 (センコー(株)とグループ80社) ※センコーグループホールディングス(株)含む (単位:t)		
	2020年度CO ₂ 削減目標	実績(達成率)
センコー(株) (センコー汽船(株)含む)	1,782	1,711 (96%)
グループ (センコー(株)を除く)	1,475	1,584 (107%)
合計	3,257	3,295 (101%)

	重点実施項目	CO ₂ 削減量			
		会社区分		合計	
		センコー(株) (センコー汽船(株)含む)	グループ (センコー(株)を除く)		
自社努力	省電力	①CO ₂ 排出係数の低い電力会社への切替 ②省エネ設備への更新(LED照明・空調) ③太陽光等の再生エネルギー活用	1,000	417	1,417
	省燃料	①先進環境対応トラックへの設備更新(電気・天然ガス・ハイブリッド) ②アイドリングストップ支援機器等環境設備導入	603	1,014	1,617
	循環型社会	①廃木パレット・廃プラスチックのリサイクル推進 ②更正タイヤ活用推進	108	153	261
合計			1,711	1,584	3,295
顧客に返すCO ₂	グリーン物流	①モーダルシフト推進 ②環境対応型効率化提案(大型化・共同配送・拠点集約)	884	125	1,009
			モーダルシフト率 75%		

環境負荷低減への取り組み

環境優良トラックの導入を推進

センコーグループでは、電気トラックやハイブリッドトラックなどCO₂・NOx排出が少ない環境優良トラックの導入を推し進めています。2020年度は、関西地区で初めて大型天然ガストラックを導入。ディーゼル車に比べCO₂排出量10%以上、NOx排出量70%以上削減、黒煙・硫黄酸化物排出なしの環境メリットを生かし、お客様からの低炭素輸送に対する要望に応えています。



大阪センコー運輸(株)で導入された大型天然ガストラック

省エネ型照明への代替推進

物流センターでは、消費電力を約75%削減(水銀灯比)するLEDなど高効率照明の切替を加速し、省電力量をCO₂に換算すると、年360t-CO₂の削減となる効果を上げています。2020年度は、複数の大規模拠点で大規模なLED照明への切替を推進し、さらなる電力エネルギーの効率的・効果的な活用を図っています。



大規模にLED照明に設備更新した北関東ロジスティクスセンター(左)、熊本PDセンター(右)

「ボトルtoボトル 東京プロジェクト」へ賛同

東京都と清涼飲料水業界団体((一社)全国清涼飲料連合会)との共同取り組み「ボトルtoボトル 東京プロジェクト」に賛同。ペットボトルをより分別しやすくした新型回収ボックスを、潮見SIFビルと平和島PDセンターに設置し、利用者の分別行動の実証実験に協力・参加しました。

今後もセンコーグループとして、「ペットボトル3分別」促進によるリサイクル率強化に取り組んでいきます。



新型ペットボトル分別回収器(平和島PDセンター)
※実証実験終了により現在は撤去

廃棄ストレッチフィルムを再生ごみ袋に再利用

センコーグループでは、新たな資源使用を減らし、既存資源の再生・再利用を促す「サーキュラー・エコノミー」を目指した取り組みを展開しています。

物流センターでも、貨物固定用の使用済ストレッチフィルムをこれまで産業廃棄物として排出していましたが、再生加工業者様との共同取り組みで100%再生ゴミ袋として再生し、循環利用しています。



物流センター屋上を活用した、太陽光発電事業を展開

センコーグループは、再生可能エネルギーの普及促進に向けた太陽光発電事業を2013年度から開始し、各電力会社へ供給しています。2020年度は、(株)ランテック門司支店に618kW規模の太陽光自家消費と60kWhの大型蓄電池を設置し、雨天・夜間時もグリーンエネルギーを活用しています。2021年度はセンコー(株)初となる大型太陽光自家消費設備(発電出力1,051kW)を岐阜羽島PDセンターに設置を計画しており、一般物流センターでの再生可能エネルギーの活用を加速化させます。

発電出力 2019年度比 **618kW** 増
全国22拠点で **17,100kW** の出力で発電しています
※経済産業省確認ベース



2020年4月稼働の(株)ランテック 門司支店

センコーグループの国内太陽光発電拠点(2021年度)

発電拠点は全国で23カ所
(内、3カ所は自家消費)
センコー(株) 21拠点
(株)ランテック 2拠点



21年度下期に太陽光発電が稼働予定の岐阜羽島PDセンター

[2021年度の設置計画]

拠点名	稼働時期	発電能力
センコー(株)岐阜羽島PDセンター	2021年度下期	1,051kW

「ライトダウン」キャンペーンを実施

資源・エネルギーの大切さを感じ、環境保護意識向上につながる取り組みとして、施設や家庭の照明の消灯を呼びかける「ライトダウン」を展開。

2020年度は夏至・七夕・冬至・クリスマスの4日間に、センコーグループの延べ40拠点でライトダウンを行い、従業員の家庭でも実施されました。



センコーグループホールディングス(株)本社の消灯前(上段)と消灯後(下段)

生物多様性保全に向けた取り組み

センコーグループは、生物多様性保全に向けた取り組みを2019年度より継続しています。2020年度は物流センター内に若木を植える「環境植樹」を、センコー(株)7支店、10グループ会社で実施。「緑」を次世代に引き継ぐ取り組みは、職場コミュニケーション向上と地域社会にも寄与しています。

また、地域の環境保護団体と共同で「大阪湾再生プロジェクト」に賛同。その一環として海草「アマモ」を育成した後、海に返し、生物のすみかづくりに協力しています。2020年度は70セットを配布し、従業員の家庭で育成しました。



海草「アマモ」

グループ間の安全衛生取り組み

センコーグループの物流企業のコンプライアンス遵守に対する取り組みを強化するために、貨物自動車運送事業者として、守るべき関係法令や社内規定などに関する管理者・実務者研修を行っています。



現地管理者との対面実習訓練場面

危険品の全国管理体制

全国に「危険品エリア責任者」を配置し、コロナ禍に対応したリモート会議にて、危険品に関する各種情報共有及び知識強化を図りました。また、有事において的確な対応を行い、被害を最小限に抑えるよう危険品取り扱いの教育・訓練を行い、安全・品質意識の向上を図っています。

法改正に伴う対応においても、タイムリーに特別教育などを行い、より安全な職場環境の整備に力を注いでいます。



リモートによる連絡会議



転落制止器具特別訓練



安全・品質ハンドブック

油漏洩時訓練



転落制止器具の正しい使用方法を実践

教育・訓練の強化

若年層への添乗指導

若年層の事故撲滅対策を強化



トレーナーによる添乗指導風景

地区訓練

各地区で業種業態にあった訓練を実施



訓練実施風景

先進技術の導入

アーチライト

作業員目線でリフトの存在を知らせるアーチライトを導入



リフトと歩行者の接触を防止

トラックソナー

後方部障害物の存在を知らせる後進時障害物検知ソナーを導入



トラックソナー取り付け位置(上2点・下4点)

CSR VOICE

物流事業者としての責任を果たすべく安全活動に力を注いでいきます

2020年度はコロナ禍により、安全活動も大きな影響を受けた年となりました。各地からの集合による実地訓練や安全研修会は、動画による研修や各地をTV会議でつないでの研修会に形式を変え、また感染対策のため少人数での訓練を多頻度開催するなど対応を図ってきました。併せて、事故抑止設備としてのトラックソナー導入など、新技術への取り組みも実施しました。このような環境下ではありますが、安全に対する手を緩めることなく、物流事業者としてのCSRを果たすべく取り組んでいきます。



いとう たかみ
伊藤 隆巳

センコー株式会社
安全品質環境管理部
安全衛生管理グループ長

センコーグループ安全方針

安全理念

「人間尊重」と「すべてに優先する安全」の精神のもと、『完全^{ゼロ}0災職場の確保』を実現する。

1. あらゆる事故・災害は防止することができ、また防止しなければならない。
2. 管理者は従業員の安全に対する責任を負う。
3. 全従業員が「あらゆる事故をなくするのだ」ということを信条にしなければならない。
4. 安全は高品質と高生産性を確保する。

基本姿勢

- ◎私たちセンコーグループは、物流事業の社会的使命を深く認識し、事業活動における安全確保が事業の根幹であることを、全従業員が正しく理解し、安全の向上に寄与する取り組みを推進する。
- ◎経営トップは、現場からトップまでが一体となって事業活動における安全の確保と安全性の向上に努めるよう積極的に主導する。
- ◎安全の基本は、健康な心身であることをセンコーグループに働く者1人ひとりが強く意識し、適切な健康管理を実践する。

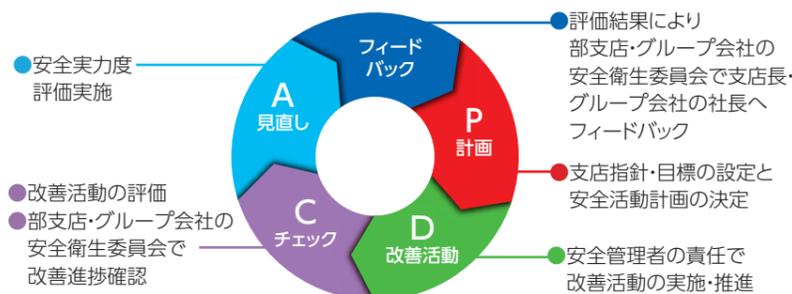
重点施策

1. 関係法令を遵守し、社会的責任を果たす。
2. リスクアセスメントを徹底し、あらゆる安全リスクを低減する。
3. 健康管理体制の充実と自主健康増進によって「健康障害」を防止する。
4. 安全衛生活動に関する情報について積極的に公表する。

安全マネジメントシステムの推進

法令に則った「安全実力度評価」(内部監査)を毎年実施し、改善進捗状況を改善ランキング表にまとめ、支店長やグループ会社の社長に定期的に配信しています。具体的な結果を地域のマネジメントにつなげることで課題解決のPDCAサイクルを回し、安全を担保しています。

【安全実力度評価の運用サイクル】



安全目標の達成状況(2020年度)

目標が未達成となったため、新たな対策を策定し推進します。

	2020年度目標	2020年度実績
車両事故度数率	0.30以下	0.57
労働災害度数率	0.92以下	1.77

< 重点対策 >

- さまざまな事故分析に基づく、実効のある防止対策の実施
- 物流グループ内の連携による安全水準のさらなる向上
- 本質改善に向けた環境整備と効果検証に基づく先進技術の積極的導入
- 各種安全管理システムの運用強化とチェック強化による安全取り組み履行体制の強化

安全中期目標(2017年度～2021年度)

車両事故、労働災害
「2016年度から半減」を
目指します

●車両事故度数率(道路上の事故)

2020年度実績 2021年度目標
0.59 / 0.51 → 0.25以下
(物流グループ) (センコー株) (センコー株および物流グループ)

●労働災害度数率(休業4日以上)の労災)

2020年度実績 2021年度目標
1.85 / 1.60 → 0.95以下
(物流グループ) (センコー株) (センコー株および物流グループ)

※物流グループには、新たに加わった会社は含まれません。

「安全性優良事業所」認定取得

センコーグループは、安全マネジメントシステムに沿った安全活動の一環として、全事業所での「安全性優良事業所認定※」の取得を目指し取り組んでいます。

2021年3月末現在で98%(前年比1%減)の事業所が認定を受けています。

※安全性優良事業所認定:

交通安全対策などの取り組みが一定の基準をクリアしたと判断された事業所に対して(社)全日本トラック協会が認定する。

グループ全体で
98%の事業所が認定



(社)全日本トラック協会が発行するGマーク



「健康経営優良法人～ホワイト500～」に4年連続で認定

センコーグループでは、従業員の健康増進を経営の重要課題として捉え「センコーグループ健康経営宣言」を社内外に発表し、健康増進活動を長年推進しています。こうした取り組みが評価され、2021年3月4日、経済産業省と日本健康会議が共同で優良な健康経営を実践する企業を顕彰する「健康経営優良法人2021(大規模法人部門(ホワイト500))」に4年連続で認定されました。



チェンジとチャレンジでさらなる健康経営企業を目指します

「健康経営」の主な取り組み

生涯を通じた健康づくりの推進

●健康講座・セミナー開催

新任課長・係長を対象にした「メンタルヘルス研修」、女性従業員や管理職向けの「ヘルスリテラシー講座」、少し健康に不安を感じている方に向けた「生活習慣病セミナー」を2020年度はすべてオンラインで開催しました。

●スポーツによる心身の健康増進

柔道、ゴルフ、水泳、剣道、囲碁に加え、女子テニス部と陸上競技部を新たに発足。東京本社ビルに新設されたテニスコート4面をフル稼働させ、男子テニス同好会とともに練習に励んでいます。



練習風景

●独自健康アプリの活用

コロナ禍でも対応できる「新しい健やか活動」を、2021年5月から、センコーグループ独自の健康アプリ「チャレコ」(Challenge+Recording)を活用して推進。歩数だけでなく、生活習慣に関するさまざまな情報(体重、食事、睡眠、飲酒、喫煙、運動習慣など)を記録、意識することで生活習慣の改善につなげています。



健康アプリ「チャレコ」

センコーグループの健康推進体制

全国の主なエリアに22名の看護職(保健師、看護師)を配置し、102名の健康推進担当者と連携して従業員の健康に係るさまざまなサポートを行っています。

また2020年度から、各エリアの産業医(78名)や看護職を束ねる「統括産業医」(小林医師、小田上医師)を迎えることで、全社方針や施策をより効果的に展開できる体制が整いました。特に新型コロナへの対策が求められた昨年度は、従業員の健康維持と事業活動を両立できる独自の基準を設定し運用しています。



全国各地に駐在する看護職

グループ各社の「健康経営」活動も高く評価されています

「健康経営優良法人2021」では、大規模法人部門で新たにセンコー情報システム(株)が認定。中小規模法人部門においては、豊橋センコー運輸(株)とハーコブ(株)が3年連続で認定されたことに加え、富士センコー運輸(株)、阪神センコー運輸(株)、江坂運輸(株)、阪神運送(株)、東海センコー運輸(株)、東京納品代行(株)の6社が新たに認定されました。今後もより多くのグループ会社で認定をいただけるよう、従業員の健康増進に向けた取り組みを支援、拡大していきます。

「健康経営優良法人2021」中小規模法人 認定会社

コロナ禍で従来の健康経営につながるイベントの実施などが難しい中、各社では、感染防止策の徹底や感染リスクを伴わない新たな取り組みの実施など、例年より多角的に健康経営に取り組みました。

東京納品代行(株)

食品の脂肪・砂糖量を見える化

従業員の健康意識を高めるため、定期健康診断の受付横に食事に含まれる脂肪や飲料に含まれる砂糖の量を見える化し、展示しました。また、ドライバーにスマートウォッチを支給し健康管理を行っています。



食事や飲料に含まれる脂肪や糖分量「見える化」

東海センコー運輸(株)

3カ月間の体重測定にチャレンジ

新たな取り組みとして3カ月間の体重測定を実施。日々測定し体重を自覚することで、食事・間食の摂生や運動の心掛けを促しました。3カ月間の体重測定の達成者には達成褒賞を設け表彰を行いました。



達成褒賞の表彰風景

豊橋センコー運輸(株)

感染防止策の徹底

ソーシャルディスタンスを取りながらの朝礼時の健やか体操、感染症防止のための飛沫防止シートの設置、ドライバー受付時の検温、消毒、禁煙チャレンジの推奨などの取り組みを地道に実行しました。

ハーコブ(株)

従来の取り組みを強化

定休日の導入や月2回のノー残業デーなど、取り組み強化を図りました。また、コロナ禍の健康管理を目的として、一部事業所で顔を識別して体温が測れるサーマルカメラを導入しました。



サーマルカメラの導入

CSR VOICE

健康活動をバージョンアップしワンランク上の健康経営企業を目指します

当社グループは、「センコーグループ健康経営宣言」のもと、従業員の健康が経営の基盤として、グループ全体で健康活動をバージョンアップしてきました。今年からはオリジナルアプリ「チャレコ」を活用し、さらに熱量を上げて取り組んでいます。

また、全国の健康推進担当や看護職、統括産業医をはじめとした有識者とも連携しながら、働き方改革やワークライフバランスに対応した取り組みを進め、さらに文化・スポーツ活動も推進することで、ワンランク上の健康経営企業を目指します。



もりぐち よしひさ

森口 嘉久

センコーグループホールディングス株式会社
執行役員 文化・スポーツ推進担当
(兼)健康推進担当(兼)健康推進部長

グループ内の優れた社会貢献活動を表彰
(株)ランテックと埼玉センコーロジサービス(株)が「優秀賞」に選ばれました

センコーグループでは「社会貢献活動表彰制度」を2016年度に設け、グループ各社から推薦された社会貢献活動を評価・表彰しています。社会貢献推進委員会による審査の結果、2019年度は2チームが優秀賞に選出されています。

(株)ランテック



優秀賞

地域の子どもの命を守る交通安全教室 出前授業

センコーグループの物流会社各社で行っている、「子ども交通安全教室」の小学校への出前授業において、(株)ランテックでは新たに各小学校の危険箇所を事前に視察調査し具体的に説明する授業を実施しました。子どもたちの命を守る重要な活動として、地域の皆さまや学校から評価をいただきTV番組でも紹介されました。

「危険箇所」を事前に視察



交通安全について、わかりやすく楽しく説明



埼玉センコーロジサービス(株)



優秀賞

若者の自立就労を支援する職場説明会や作業体験を実施

埼玉センコーロジサービス(株)では、NPO法人深谷若者サポートステーションと連携し、就職・就学していない15~39歳までの若者に対し、自立就労を支援する職場説明会や作業体験を行いました。

この取り組みにより各地で8名の採用を実現し、社会問題ともなっている就労困難者の社会参画支援の一助となりました。

職場説明会



作業体験



地域産業の活性化に貢献
農林水産省中国四国農政局から「梨オーナー制度」が表彰されました

(株)センコースクールファーム鳥取

農山漁村のポテンシャルを引き出す優良事例として評価

地域の特産である梨の農家が減少していることに目を向け、(株)センコースクールファーム鳥取では、広くオーナーを募ることで農業とともに観光産業の振興を図る「二十世紀梨オーナー制度」を立ち上げています。皆さまから支援をいただくこの制度が、「強い農林水産業」「美しく活力ある農山漁村」の実現に向け、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良な事例として、農林水産省中国四国農政局から評価・選定いただきました。

選定理由は以下のとおりです。オーナー口数も年々増加しており、今後も地域に貢献できる活動を継続的に行っていく考えです。

- ①二十世紀梨の栽培面積減少をくい止め、梨産地再生に寄与したこと
- ②地元温泉の宿泊と梨の収穫体験を組み合わせた「ふるさと納税返礼品」に採用され地域に貢献したこと
- ③新規就農者の育成につながる取り組みであること



授与式での取材の様子



授与式での記念写真



CSR VOICE

地域・社会の発展に貢献する、主体的な取り組みを行っていきます

センコーグループは、「良き企業市民として積極的に社会活動に参画し、文化・芸術、スポーツ活動の振興や主体的な社会貢献活動を通じて、心豊かな社会を創出し、地域・社会の発展に貢献する」という企業行動規準の下、地域との連携を図り、社会の発展に貢献することを目指しています。2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、グループ共通活動である交通安全、清掃、献血活動については、地域のご要望に応え感染防止対策の徹底を図りながら実施し、スポーツ・文化の振興活動も積極的に展開しました。



やまざき まこと
山崎 真人
 センコー株式会社
 執行役員総務部長

グループ会社の社会貢献活動

■ 小学校や保育園でダンス教室を開催 (株)ブルーアースジャパン

山梨、東京、神奈川、静岡、長野で総合スポーツクラブを展開する(株)ブルーアースジャパンは、地元行政の要請に応えダンス教室を小学校や保育園で開催。皆さまの健やかな暮らしを応援しています。

甲府市教育委員会からの依頼

甲府市では、放課後や週末などに小学校の余裕教室を活用し、子どもたちに勉強・スポーツ・文化芸術活動、地域住民との交流の機会を提供しています。地域社会の中で、子どもたちが心豊かで健やかに育まれる環境づくり活動に、(株)ブルーアースジャパン・イオンタウン山梨中央店も参加。石田小学校・国母小学校・舞鶴小学校・千塚小学校などに出向いてダンス教室を開催し、楽しい交流の時間を持っています。

南アルプス市からの依頼

山梨県南アルプス市では、子どもたちの生涯教育の一環として、『より多くの体験をする』という目的でさまざまな活動を行っています。(株)ブルーアースジャパンはこの活動に協賛し、ダンス教室を地元保育園(百田保育園・八田保育園・白根東保育園など)で開催しています。この取り組みは15年前から続いており、これまで多くの子どもたちが参加。豊かな情操を育むお手伝いをしています。



子どもたちの笑顔あふれるダンス風景



地域社会との連携

■ 「子どもたちに絵本を届ける活動」を継続

子どもたちに絵本を届ける活動は、「東日本大震災 被災地の子どもたちに絵本をプレゼント」の活動を継承した取り組みで、2020年度は10月22日から12月4日の期間に開催。グループ全体で1,499冊もの絵本の寄付があり、昨年度の508冊を大幅に更新する結果となりました。

これまでの思い出が詰まった絵本は、保育園や老人ホームなどの施設に配布され、大変喜ばれています。子どもたちはたくさんの絵本のなかから、好きなものを手に取り、また「施設が新しく絵本が不足しており大変助かりました」「絵本がどれも綺麗で質の良い絵本ばかりなので、早く子どもたちに読んでほしい」といった声も多数いただいています。

今後もセンコーグループのCSR推進の一環として、絵本を届ける活動を続けていきます。



1,499冊もの絵本が集まりました!



お届けした「北中本保育園」の子どもたちと



特別養護老人ホーム「聖家族の家」の皆さま

■ 水俣市観光PR用ラッピングトラックを運行

南九州センコー(株)では、水俣市観光PR企画として、水俣市出身の漫画家・江口寿史さんのイラスト及び観光地(湯の児海水浴場、エコパークバラ園など)写真が描かれたラッピングトラックの運行を開始しています。

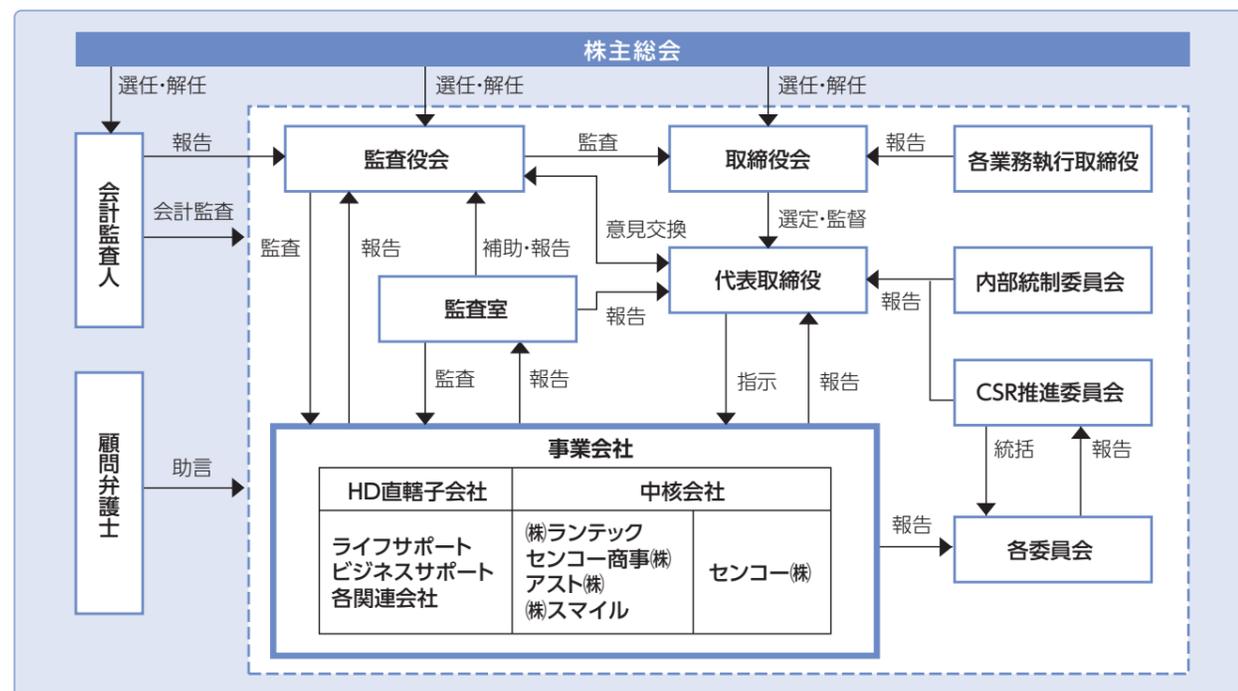
出発式是水俣市主催で9月12日に開催され、関係者を含めた約60名が参加しました。ラッピングトラックは全国を走ります。これまで以上にプロ意識を持って業務に取り組むとともに地元振興の一翼を担っていききたいと考えています。



ラッピングトラックで全国に水俣市をPR

コーポレート・ガバナンスの考え方と体制

センコーグループは、人を育て、人々の生活を支援する公共性の高い事業などを行う企業として、コンプライアンス（法令遵守）に徹した事業活動こそが、企業の社会的責任を果たし、信頼を得ることにつながると考えています。そのため、コーポレート・ガバナンスを経営の最重要課題のひとつに位置づけ体制の強化に努めています。



コーポレート・ガバナンス・コードへの対応

金融庁と東京証券取引所は、実効的なコーポレート・ガバナンスの実現に資する主要な原則として「コーポレート・ガバナンス・コード」を取りまとめ、2015年6月から適用を始めました。これを受けて、コーポレート・ガバナンスの充実に取り組む姿勢を明確にするため、コーポレート・ガバナンス・コードのすべての項目をWEBサイトで開示しています。

以下詳細はWEBサイトをご覧ください

- コーポレート・ガバナンスに関する報告書
 - コーポレート・ガバナンス・コード各原則への取り組みについて
- <https://www.senkogrouphd.co.jp/ir/governance/>

コンプライアンス経営

法令を遵守し倫理にかなった事業活動を行う「コンプライアンス経営」は、企業が社会的責任を果たし、ステークホルダーの皆さまから信頼を得るために最も基本的なことです。

センコーグループでは、すべての役員、従業員が社会的責任を深く理解し、企業活動のあらゆる場面で遵守すべき事項を「センコーグループ企業行動規準」として定めています。

リスク管理体制の強化

事業上起こりうるリスクに万全を期すために、緊急事態には人命優先、物的損害の軽減、業務の早期再開、社会的信用の維持、地域社会への貢献の観点で対応する体制を築いています。

リスク教本の改訂

過去発生したリスク事例や他社事例、法令解説、リスク管理のポイントなどをまとめた「リスク教本」を改訂しました。

事業運営に潜む危険を理解し、危機に発展させることがないように、リスク教育に活用しています。

BCP(事業継続計画)の整備

災害時に事業を迅速に復旧させるためのBCP(事業継続計画)を、グループの拠点ごとに構築しています。緊急時にはBCPに基づき本社と現地の対策本部長による指揮で支援活動と復旧活動が迅速に行われます。

データセンターが被災した場合に備えた、データバックアップセンターでは災害で基幹システムが停止した場合も30分以内にシステムが復旧し、事業体制を維持できるようにしています。

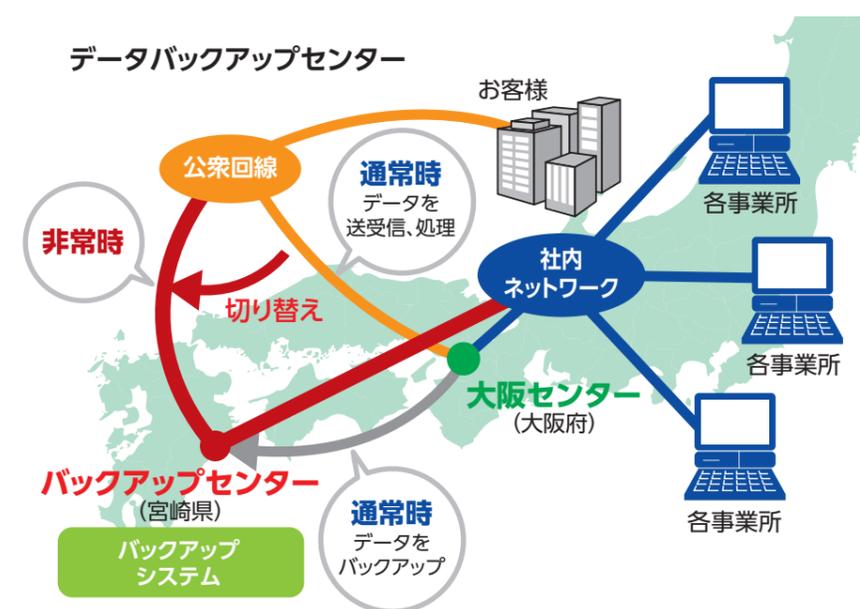
また、被災時には従業員がスマートフォンなどで安否を報告し、従業員の被災状況を迅速に確認できるシステムを自社で開発。年に2回、グループ全従業員を対象に模擬訓練を実施し、実際の被災時における迅速な安否確認に備えています。

津波避難訓練を実施

地震発生からの火災・津波を想定した避難訓練を九州沿岸部の支店で実施しました。南海トラフ大地震に備え、有事の際、速やかな避難行動が取れるよう、今後も訓練を行っていきます。



水消火器での消火訓練の様子





E nvironment

CO₂排出量^{※1}
単位:t-CO₂

269,876
t-CO₂



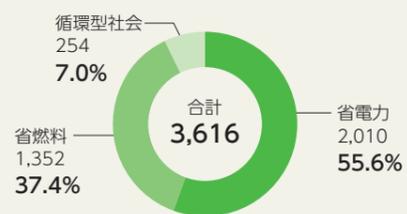
※1: Scope1+Scope2計

連結売上高
単位:億円

5,700
億円

CO₂削減活動実績
単位:t-CO₂ 2020年度実績など
詳しくはP20へ

省電力 2,010 t-CO₂ 省燃料 1,352 t-CO₂ 循環型社会 254 t-CO₂



再生可能エネルギー
太陽光発電実績
(センコー単体)
単位:1000kWh

18,342 千kWh



グリーン物流
モーダルシフト率
単位:%

70.0%



環境配慮
車両保有比率^{※2}
単位:%

66%



※2: 自家非営業車両は除く

S ocial

労働災害度数率^{※3}
単位:度数率

2020年度実績など
詳しくはP26へ

2.235



※3: 対象範囲(センコー(株)、センコーグループ物流会社)

労働災害強度率^{※3}
単位:強度率

0.130



社会貢献活動
単位:人

清掃活動 14,619人 交通安全活動 1,922人 献血活動 1,129人



新卒採用者に占める女性の割合
単位:%

46.4%



管理職に占める女性の割合
単位:%

9.1%



女性取締役比率
単位:%

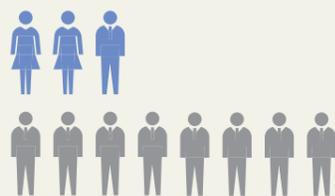
18.2%



G overnance

社外取締役比率
単位:%

27%



社外監査役比率
単位:%

50%



外部評価

選定されているESGインデックス

2021 CONSTITUENT MSCIジャパン
ESGセレクト・リーダーズ指数

2020 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)



健康経営優良法人
~ホワイト500~に認定

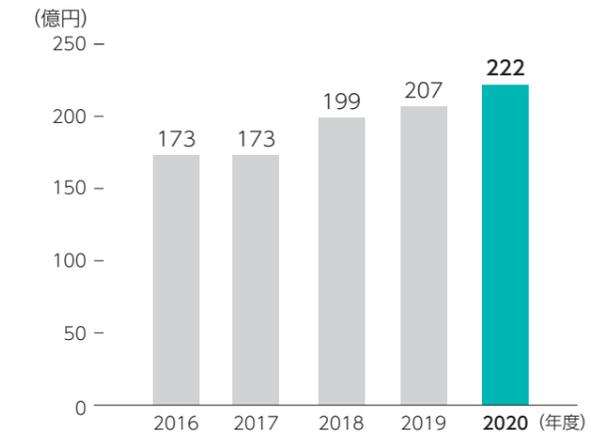


企業データ

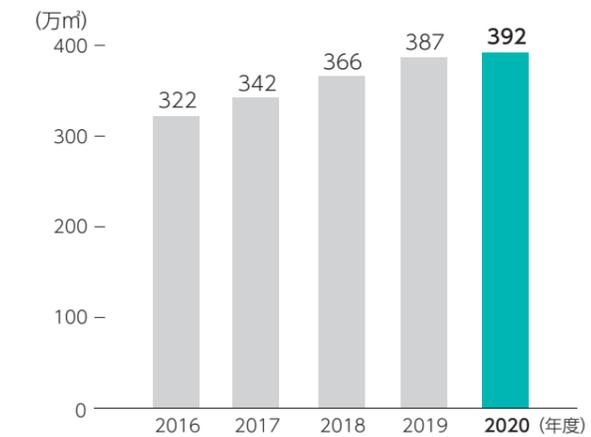
会社概要 2021年3月31日現在 (グループ合計)

商号	センコーグループホールディングス株式会社 (SENKO Group Holdings Co.,Ltd.)
資本金	265億64百万円
創業	1916(大正5)年9月
設立	1946(昭和21)年7月
本社	〒135-0052 東京都江東区潮見2-8-10 潮見SIFビル
代表者	代表取締役社長 福田 泰久
事業所数	国内 633カ所 海外 64カ所
従業員数	19,755名
車両台数	7,538台(被牽引車両を含む)
支配下船舶数	69隻
物流センター	392万㎡

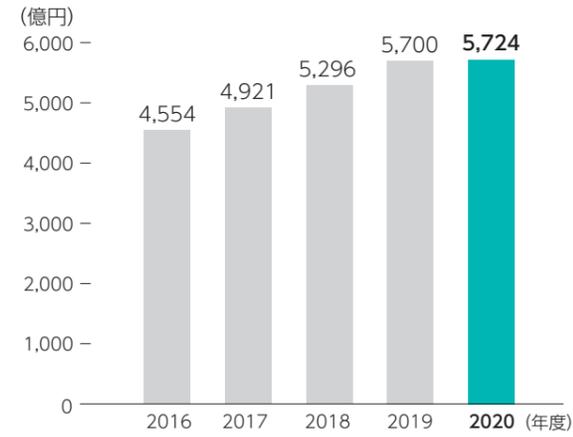
連結経常利益



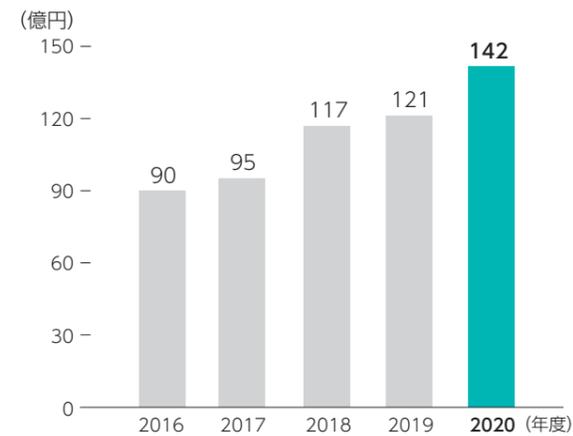
物流センター総面積



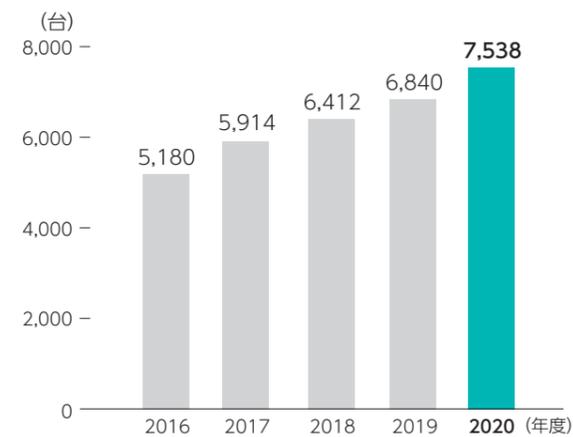
連結売上高



連結当期純利益



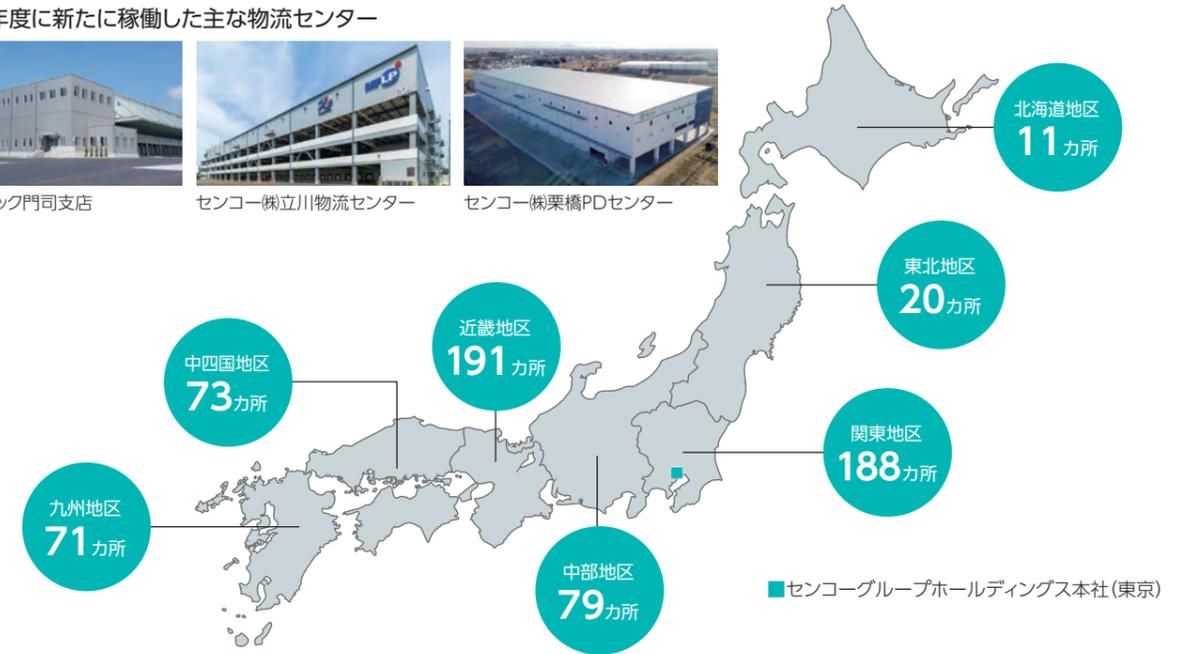
車両台数(被牽引車両を含む)



国内事業所(633カ所)

2021年3月31日現在

2020年度に新たに稼働した主な物流センター



海外事業所(64カ所)

2021年3月31日現在

2020年度に新たに稼働した主な物流センター

